

6-3 香美町における地域公共交通活性化・再生総合事業

香美町地域公共交通総合連携計画の目標

平成20年10月から全但バスの路線が大幅に縮小(2路線20系統が休止)される中で、公共交通空白地域の解消を図るため、住民の日常交通、特に児童生徒の通学や高齢者の通院等に必要なる交通手段を最低限確保することを基本に、効率的な代替交通手段の構築を目指す。

20年度事業の実施状況

1. 事業の内容

1) 町民バスの実証運行

- 運行期間：平成20年10月から平成21年3月まで
- 運行路線：村岡香住線、相谷御崎線、畑香住線
- 運行便数： " 10便、 " 11便、 " 4便 (平日)
- 運賃：距離制 150円～
- 運行事業者：全但バス(株)

2) 公共交通の改善及び利用促進

- ・これまで全但バス(株)により運行されていた路線・便を見直し、利用者の多い時間帯を中心とした効率的な運行に改善する。
- ・「地域の交通は地域で守ろう」を合言葉に、沿線住民へ利用促進を呼びかける。

香美町地域公共交通活性化協議会

香美町、全但バス(株)、(有)香住ハイヤー、兵庫県バス協会、全但バス労働組合、香美町連合自治会、香美町老人クラブ連合会、香美町社会福祉協議会、香美町PTA協議会、香美町観光連絡協議会、美方警察署、兵庫陸運部、兵庫県但馬県民局

【事務局】香美町総務部企画課 0796-36-1962



「行ってらっしゃい！」元気に登校する児童たち

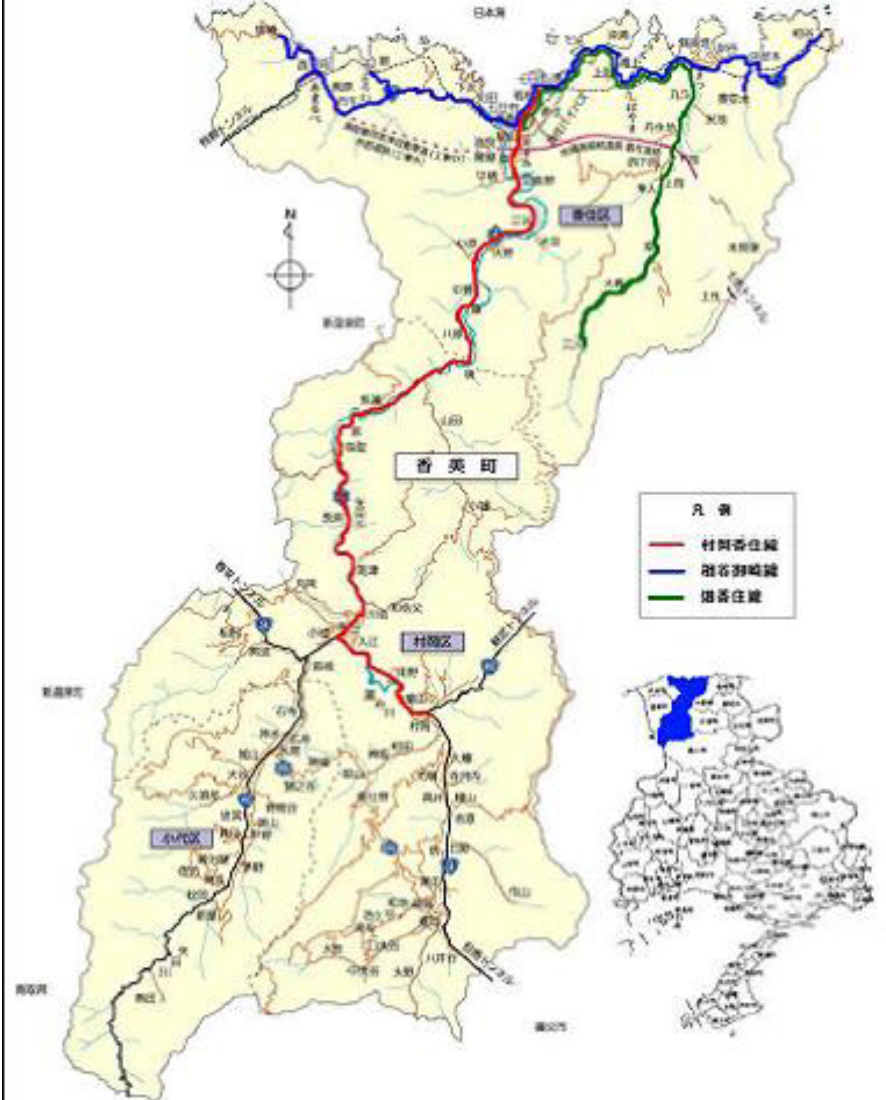
2. プロセス、創意工夫

- 20年10月1日から休止対象となった2路線20系統を3路線に再編し、町民バスとして全但バス(株)に運行委託。
- 運行車両は、各路線とも1台とし、全但バス(株)の車両2台及び旧町民バスのワゴン車両を活用。
- 便数は、必要最小限の2～5往復とし、効率的な運行を図る。
- 利用者の声を聞きながら、必要な改善措置を講じる。
- 通院する高齢者等の利便性を向上させるため、2/1～新たに「香住病院」への乗り入れを行う。
- 利用者の声
 - ・便数を増やしてほしい。
 - ・JRとの乗り継ぎ改善を。
 - ・香住病院へ乗り入れてほしい。
 - ・バス停が新設されてありがたい。
 - ・土日曜日に香住駅から大乘寺行きが無い。(観光客)

3. 事業費等 (単位：千円)

■総事業費	15,850	●運賃収入	5,268
		●町負担金	5,291
		●総合事業費補助金	5,291

香美町町民バス路線図



4. 利用実績

○利用者数/日

路線名	今回調査 20.10.8	前回調査 18.11.17
村岡香住線	120人(10便、12.0人/便)	109人(18便、6.1人/便)
相谷御崎線	24人(11便、2.2人/便)	38人(19便、2.0人/便)
畑香住線	13人(4便、3.3人/便)	38人(8便、4.8人/便)
計	157人(25便、6.3人/便)	185人(45便、4.1人/便)

6. 今後の課題

- 住民の日常交通手段として、より利便性の高い運行となるようなダイヤ等の改善
- 利用促進
- より効率的な運行

21・22年度の事業予定

- 町民バスの実証運行……………21・22年度
- 町民バス車両の導入……………22年度
- 利用促進活動(情報提供、啓発)……21・22年度

5. 事業実施効果

- 全但バス(株)のバス路線休止に対応した、町民バスの運行により、通学、通院等の足の確保ができた。
- 各路線とも減便による利用者の集約化を行い、1便当たりの平均乗車人員が4.1人から6.3人に向上し、効率的な運行となった。



(上)10月1日町民バスの出発式
(右上)村岡香住線、畑香住線の全但バス車両
(右下)相谷御崎線の町有ワゴン車

